

日本における地名標準化の 現状と課題

2019年5月13日[月] 13:00-17:00 | 予約不要・入場無料 |

日本学術会議 講堂

【主催】 日本学術会議地球惑星科学委員会 IGU 分科会、地域研究委員会地域情報分科会 【後援】 地理学連携機構、日本地理学会、人文地理学会、日本地図学会、地理情報システム学会



日本学術会議 〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34
【アクセス】 東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5番出口
(青山霊園方面)より徒歩1分
【問い合わせ先】 岡本耕平 (名古屋大学)
E-mail: h44540a@cc.nagoya-u.ac.jp

現代社会において、地名は、行政や教育現場、マスメディアのみならず、農産物の地理的表示や観光産業などにおいて重要な役割を果たしている。また、情報化の進展によって位置データとして地名の重要性も増している。一方で、日本では地名の使用に関して、地名表記の不統一や由緒ある地名の改廃など、多くの課題を抱えている。また、諸外国では、国家地名委員会等、地名を統合的に管理する組織を有しているが、日本には存在しない。そこで、現代日本における地名が果たす役割と課題を幅広く議論し、「地名標準化」(公的機関による地名の表現方法等についての規範の確立)の意義を明らかにするため、本シンポジウムを開催する。

PROGRAM

- 13:00-13:10 **趣旨説明** 岡本耕平 (日本学術会議連携会員 名古屋大学大学院環境学研究科教授)
- 13:10-13:30 **国際社会における日本の地名標準化** 田邊 裕 (東京大学名誉教授)
- 13:30-13:50 **地名に関する我が国の法制度と行政** 野々村邦夫 (日本地図センター理事長)
- 13:50-14:10 **市町村合併にともなう地名決定プロセス問題** 戸所 隆 (高崎経済大学名誉教授)
- 14:10-14:30 **文化財・歴史資料としての地名** 服部英雄 (くまもと文学・歴史館館長)
- 14:40-15:00 **ジオコーディングと地名** 碓井照子 (日本学術会議連携会員 奈良大学名誉教授)
- 15:00-15:20 **地名ブランドと知的財産** 内尾雄介 (日本貿易振興機構知的財産・イノベーション部知的財産課長)
- 15:20-15:40 **教育における地名** 三橋浩志 (文部科学省教科書調査官)
- 15:40-16:00 **ジャーナリズムにおける地名** 片岡正人 (読売新聞北海道支社専門委員)
- 16:10-16:50 **総合討論** 司会：高木彰彦 (九州大学大学院人文科学研究院教授)
- 16:50-17:00 **閉会挨拶** 石川義孝 (日本学術会議第一部会員 帝京大学経済学部教授)

【総合司会】 小口高 (日本学術会議連携会員 東京大学空間情報科学研究センター教授)

